えんでこ　運営推進会議録

日時　　令和５年　６月　15 日（木）　10：30～11：30

場所　　えんでこトレーニングルーム

出席　　小菅様（ご利用者代表）、近藤様（家族代表）、布施様（西内野民生委員）

荒木様・古寺様（包括赤塚）、泉井様（内野リハ道場）、高橋事務局長、

木村、井口

欠席　　江口様（平和台自治会長）

内容　１．出席者自己紹介

２．活動内容、利用状況など報告

①別紙・「えんでこ利用状況」報告：井口

・コロナ５類移行後の対応について

→本人が感染した場合：5 日間利用休止。6 日以降の体調を確認し利用再開

→家族が感染した場合：5 日間休止。6 日目に抗原検査（検査キットは届ける）、陰性の場合、利用再開。尚、検査を本人家族ができない場合は、利用再開前に職員が出向いて実施する。

→手洗い、うがい、マスク着用、朝の自宅での検温、午後活動前の検温は継続

・コロナワクチン接種（6 回目）、6/24，30 に予定。

②最近の主な活動など報告：木村主任

・冬期間はコロナ禍ということもあり、門松の再利用で巻きすを作成したり、パン作り、干し芋づくり、調理活動など、屋内での活動が多かった。

・柿団地（旧巻町）の柿の木の剪定や薪割りなどの外作業は行っていた。

・使用期限切れのマスクを大量にいただき、コーヒーかすで作った消臭剤入れや掃除用にするなど形を変えて再生活用している。簡単な作業のため、気軽に取り組める利用者が多い。また、利用者間で作り方を教えあうなどのよい関係性もできてきている。

・土曜日は全員男性利用者。米研ぎ、昼食の盛り付け、食器洗いなど、普段は女性利用者に任せていることも土曜日は男性が嫌がらずに協力してくれている。4月にはお弁当を作って、公園でお花見をした。

・コロナ以前、えんでこに遊びに来ていた子供たちがこの春中学生になった。今でも「またえんでこに遊びに行きたい」と言ってくれている。

・今後、コロナの発生状況により、地域に向けた対外的な活動を増やしていきたい。

３．質疑応答、感想など

・魚のアラの買い出しに一緒に行きたい（小菅様）

→連休明けのコロナの発生状況の様子をみていた。今後状況をみて再開する

・大きいお風呂に入りたい。えんでこの浴槽では足が伸ばせない。

→担当のケアマネと相談し、ゆうばえデイの利用などを検討する

・今年は祭りの予定はあるか（小菅様）

→10 月末に畑で収穫した野菜の販売や焼き芋などのマルシェを予定している

・利用開始から半年たつが、夫はいまだに行きたがらない。（近藤様）

→慣れるまでに時間のかかる方もいる。近藤さんの場合は、午後、夕方に近づくほど顔の表情が良くなり多弁になる。職員も頑張って、近藤さんのできる事や興味の持てる作業を模索している。

・他の事業所に比べ、男性利用者が多いのはなぜか（古寺様）

→滞在中にあまり縛りがなく、自由に本人のやりたいことをできる環境による事が考えられる。

・様々な活動を行っており、驚いた（古寺様）

→えんでこの職員は、介護技術、認知症対応の他、社会の流行などを踏まえ常にアンテナを伸ばし、一緒に楽しむ姿勢が求められている。「〇〇さんと一緒にこれをやってみよう」「〇〇さんから教えてもらおう」という姿勢で日々

対応させてもらっている。アイディア豊富な職員が揃っている。

・本人がやりたいことをする事で、生きがいづくりに繋がっている。本人のやりたいことを引き出す職員の力、地域の事情を理解し地域との繋がりをつくっている姿勢はすばらしい。（荒木様）

・本日午後の民生委員協議会で、7 月の見学会について紹介したい（布施様）

・薪割りや畑作業を一緒に行うと、昔父親から教わったという方法を作業中に思い出したり、生き生きと取り組む姿に感動する（高橋事務局長）

・次回開催は、12 月第 2 週を予定。11 月中にご連絡します。